松戸市立総合医療センターで理学療法を実施された患者さんおよびご家族の方へ

研究課題

「重度脳損傷者の転帰先の調査」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。研究結果は論文及び学会等で発表される事がありますが、その際も個人を特定する情報は公表しません。

1. 研究目的

近年、疾病の発症および受傷により入院を余儀なくされた患者さんへの早期からのリハビリテーション(以下リハビリ)や離床の重要性が指摘されています。当院は千葉県東葛地区において3次救急病院という、重症度の高い患者さんが搬送され、入院されることの多い病院となっています。そのため、重症であるが故に病前や受傷前に営まれていた日常生活活動(以下ADL)への復帰が困難になる症例を経験します。特に、脳に重大な疾病を抱えられた場合、半身が動かなくなる麻痺症状、言葉が話せなくなることや一つのことには注意を持続して向けることが困難な症状などの高次脳機能障害により一層、従来の生活へ回帰することが困難になる場合が多いです。しかし一方で、必ずしも、元のADLに戻らない患者さんばかりではありません。その点を踏まえ、我々は当院へ入院される患者さんの重症度や入院期間、栄養状況、さらにリハビリの開始時期などの状態を把握し、それに応じた医療の提供が重要であると同時に、皆が元のADLを取り戻せるように関わっていく必要があると考えています。

そこで、この研究では脳損傷患者さんを対象とした転帰先を明らかにし、その転帰先に至った入院過程の詳細を調査することで、今後、重症で入院される患者さんへのよりよい医療の提供に繋げて参りたいと考えています。

2. 対象及び方法

対象：2022年4月1日～2024年3月31日までに入院された脳損傷患者さんを対象

方法：後方視的に診療録を参照

3. 調査期間

調査期間：2022/04/01～2024/03/31

研究期間：2024/12/18～2025/03/31

4. 調査内容

➤ 基本情報

年齢、性別、BMI、同居家族の有無、入院以前の日常生活自立度

➤ 医学的情報

現病歴、既往歴、入院期間、集中治療室管理日数、リハビリ開始までの期間、重症度スケール(modified Rankin Scale : mRS)、外科的侵襲の有無、人工呼吸器装着の有無および装着期間、血液検査結果、栄養内容ならび形態、栄養の開始時期、転帰先（自宅または転院）、退院時の日常生活自立度

➤ リハビリテーション評価

離床開始までの期間（端坐位・立位・車椅子乗車および歩行開始日数）、リハビリテーションの実施内容、リハビリテーション実施単位数、高次脳機能検査結果

5. 情報の利用拒否

この研究の対象となる可能性のある方で診療情報等を研究に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

6. 研究者

代表研究者：室谷 匡紀（松戸市立総合医療センター 理学療法士）

7. お問い合わせ先

この研究にお問い合わせがありました以下の連絡先までご連絡ください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

研究責任者：室谷 匡紀

松戸市立総合医療センター

リハビリテーション科 室谷 匡紀

連絡先(TEL)：047-712-2511（代表／応対可能時間：平日 8 時 30 分～17 時）